



多言語・多文化介護の実践から

特定非営利活動法人

神戸定住外国人支援センター(KFC)

フフデルゲル(呼和徳力根)

フフデルゲル

2020. 1. 23

自己紹介

- 中国・内モンゴル自治区バーリン生まれ。
- 2005年来日、日本語学校→大学院。
- 2010年神戸市外国語大学大学院修士号
- 2010～神戸定住外国人支援センター
- 介護福祉士、介護支援専門員の資格
- 現：ゼネラルマネージャーとして在日韓国人、ベトナム人、中国人および中国残留邦人帰国者等の高齢者支援に取り組む。



神戸定住外国人支援センター (KFC)

2013年3月 発行

1999年～ ハナの会活動 在日マイリティ高齢者支援事業のスタート

事業の前提

- 食事や文化に対応したデイサービス
- 生活保護者に対応した介護事業
- マイリティ高齢者支援を視野にいたった調査・研究機能

(2004年在日コリアン高齢者対面調査)

2005年～
デ イサービ スセンタ-
ハナの会
開設

2009年～
ハナ介護サービス
(訪問、ケアマネ)
開設



5

2010年 在日『外国人』高齢者の生活課題調査

- 1 調査期間:
 2010年9月～2011年1月
- 2 在日コリアン10名
 在日ベトナム人5名
 中国残留邦人帰国者および配偶者6名

6

2011年～ 中国残留邦人帰国者支援開始

2011.3.14 調査報告会 → 交流会開始



7

2012年～ グループホーム ハナ開設



8

2013年～ 在日ベトナム人高齢者支援事業開始

2013年～調査

交流会 開始

神戸在住 高齢ベトナム人
日本語会話の支援急務

福祉利用や地域交流支障

NPO法人実態調査

在日外国人を支えるNPO法人神戸定住外国人支援センター（神戸市東灘区）が市内で暮らすベトナム人高齢者の実態を初めて調査した。日本語の会話能力が低く、介護保険制度などを理解しにくい状況が判明。同センターは、支援につなげるきっかけづくりが必要。外国人高齢者支援の在り方を考えていきたいと話し合っている。（宮本万里子）

同センターは、阪神・淡路大震災を機に、84人とベトナム人の語、収入、健康・医療に課題などの支援をする。1007年に特定。ハ・ティ・タン・ガキの状況は10項目について聞いた。今回は、同センター52人が、60～80代の13人は、難民や、家てい、利用は年数族との再会などが対象。人にとまる。の合法出国計画（OD）ガキは「他人の目Pで来日した人、で、を気にしたり、生活保日本滞在年数は10～27歳を受けているからと年。全員が生活保護をい」と指摘。車本さん13人も、日本語は「福祉サレの体生活で使わず、情報収験をた外に出る機会集や各種手続きの際には「べりを進めたい」と子ども孫に頼ると話している。

同答。福祉制度の利用。まどめは、今年の事業報告書に掲載し、海外の外国人高齢者支援の先進事例なども収録。内容を見た人、神戸定住外国人支援センター（20078・612・2402）

外国人高齢者支援の必要性について話し合うガキさんと宮本さん
神戸市東灘区若松町4、神戸定住外国人支援センター

9

KFCの介護支援

- ・ 居宅介護
- ・ 訪問介護
- ・ 通所介護
- ・ 小規模多機能型居宅介護
- ・ 認知症対応型共同生活介護
- ・ コミュニケーションサポーター

事例1 文化の理解

中国残留邦人帰国者 男性

- サービス担当者会議 ケアマネの一言：〇〇さんは認知症が酷くなっています、訪問する時、お茶の葉っぱをそのままコップに入れて飲んでいたので。
- ※お茶の葉っぱをそのままコップに入れて飲む＝認知症とはなぜ？？？

11

例1.文化理解ができていない現場

「日本ではお茶を淹れる際、茶葉を急須に入れますが、中国では、直接、湯呑に入れます。そのことを知らない日本人のケアマネジャーは、中国人の在宅利用者の自宅訪問をした際、いきなり湯呑に茶葉を入れたのを見て、認知症が進んだと勘違い」

お茶の葉っぱをそのままコップに入れたら ＝ 認知症？



中国式（東北）



日本の急須

12

事例2 非言語コミュニケーション 異言語認知症のレクリエーション

- 言葉が通じなくても数学問題や塗り絵などで、楽しく過ごしてもらうことができる。
- 認知症の方でも言葉が通じない人と認識している



13

事例3 コミュニケーション

- ベトナム華僑
- 広東語、ベトナム語
- 構音障害

14

例4.気軽に相談や要望を言える環境が必要

同国出身者の送迎を担当した時、やっと要望を聞いた。

家族の方と年末の挨拶を中国語でをしていた時、お風呂の時背中を洗って欲しいと言う。

普段は言葉の数が少なく何も言わない。

いつも周囲に気遣って行動する。



要望があってもそれを丁寧に適切に(相手を傷つけないように)伝えることができるかどうか自信がなく我慢していた。

※ 介護の基本「尊厳の維持」「自立支援」

※ ケアマネ、生活相談員など管理者レベルでの言葉や文化の理解が必要

15

事例5 家族支援

■ 中国残留邦人帰国者二世



文化が違い
言葉が通じない



家族支援が
できない

16

事例6 価値観＋認知書

- 生活暦(戦時中の加害者＆被害者)
- 価値観相違
- 空間設定

17

事例7 言葉、認知症、統合失調症、体 『一人の幸せは多く方の幸せにつながる』

- ※日本語がわからない、
- ※日にちがわからない、お金の管理ができない、
ご飯ができない
- ※精神不安定(人間不信、挙動不審「収集癖」
→通報等)
- ※徘徊範囲が広い、怒ると手を出すこともある
- 役所、警察、地域自治会、近隣住民が戸惑う。
- 本人:綺麗な絵柄が好き、世話好き、韓国にいる
家族も気になる。

18

事例8 文化差異

■ 看護師スタッフのメモから

文化・習慣

感謝されるポイントが違う

※現場の日本人スタッフから文化差異

19

★人間が人間を理解するもの

特に、外国で暮らすということの中に、差別を感じる時があるのでは？

他の人と扱いが違う場合、に疎外感、差別を受けたという気持ちが生じるのでは？

やすらかな老後生活

「貴方にとっては、親切で優しい」

ある中国人が私に「貴方にとっては親切で優しい」

したこと

女性の足は水虫→入浴後、薬を塗ってあげただけ。

当たり前の事を、当たり前にすることだけでも、人は人を認められる

20

事例9 在日コリアン2世？

- 2歳の時来日（現在90代、年金暮らし）
- 家を二度にわたり築き、震災を乗り越え
- 80歳を過ぎ、日本国籍変更
- 自分探しを続ける

21

考察&展望&期待

- 在日外国人1世には、言葉と文化と食事への配慮が必要。 **シンプル**
- 言葉：体調を崩された時、トラブルが発生した時、食事、要望...
- 文化：ニーズの把握、行動への理解、やさらかな老後生活を...
- ※言葉ができるケアマネ・生活相談員などの支援者が必要
- 在日外国人2世のニーズは多様化
- グローバル化（集団の論理の中の） **多様化**

22

「外国人」高齢者は来日した事情が様々、
だが、日本で生活をし、最期を送っているのが事実。
全ての人々に幸せな最期がありますように、、、、、、

- 現状を含めた長期政策
- マスメディア
- 人々の理解(こころ)
- 多文化エイジェント等

23



特定非営利活動法人 Kobe Foreigners Friendship Center
神戸定住外国人支援センター

한국・조선어 中文 Tiếng việt
Portugués Español English

お問い合わせ 住所・アクセス

ホーム KFCについて KFCの活動 ニュースレター ご支援くださる方へ

KFCは、
地域に暮らす、多様な文化背景を持つ人々が
「ともに生きる」ことができる社会をめざして活動しています。

Identity	自分らしさを大切にしながら
Communication	ひとと心を通い合わせ
Equality	すべての人の平等を考えて
Rights	人権の実現と
Life	命の輝きを求めます



ハナの会
デイサービスセンター



グループホーム
ハナ



小規模多機能型
泊まり 居宅介護
通い 訪問
ハナ



なでしこジャパニーズ
グループ/マンツーマン
日本語レッスン



多文化子ども共有センター
"Moi"



KFCの刊行物

<https://www.social-b.net/kfc/index.htm>



24